

## 単元名 2けたでわるわり算の筆算

配当時間 11 時間

- 単元の目標 (1) 除数が2位数の計算の仕方や除法に関して成り立つ性質を理解し、何十でわる計算や除数が2位数の除法の筆算ができる。  
 (2) 除数が1位数の除法を基に、除数が2位数の除法の筆算の仕方について考えることができる。  
 (3) 除数が2位数の除法の筆算の仕方を進んで考えようとする。

## 標準的な展開例

04040201\_001

【準備等】お金の模型、色紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 何十でわる除法で、商の見当を付ける。[p. 104・p. 105]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 買い物をする場面を基に、80円で8円のあめや20円のあめを買う式を考える。</li> <li>○ 単元の学習課題をつかむ。</li> <li>★ わる数が2けたのわり算について、計算のしかたを調べていこう。</li> <li>○ <math>80 \div 20</math>の計算の仕方を考える。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> <li>○ <math>120 \div 20</math>の計算の仕方を考える。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> </ul> <p>2 (2, 3位数) <math>\div</math> (2位数) で余りがある除法の仕方について考える。[p. 106・p. 107]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の課題をつかむ。</li> <li>★ <math>80 \div 30</math>のような、あまりのあるわり算のしかたを考えよう。</li> <li>○ <math>80 \div 30</math>の計算の仕方を考える。</li> <li>○ 商と余りを求め、計算の確かめをする。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> <li>○ <math>170 \div 30</math>の計算の仕方を考える。</li> <li>○ 商と余りを求める。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> </ul> <p>3 (2位数) <math>\div</math> (2位数) で、商の見当を付け、筆算の仕方を理解する。[p. 108・p. 109]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <math>96 \div 32</math>の計算の仕方について考える。</li> <li>○ <math>96 \div 32</math>が3になることを確かめる。</li> <li>○ 単元の学習課題をつかむ。</li> <li>★ <math>96 \div 32</math>のようなわり算の筆算のしかたを考えよう。</li> <li>○ <math>96 \div 32</math>の筆算の仕方を考える。</li> <li>○ <math>96 \div 24</math>の筆算をする。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> </ul> <p>4 (3位数) <math>\div</math> (2位数) で、商の見当を付け、筆算の仕方について考え、計算をする。[p. 110]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題文に合う式を立てる。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★ (3けた) <math>\div</math> (2けた) の筆算のしかたを考えよう。</li> <li>○ <math>175 \div 35</math>の筆算をする。</li> <li>○ <math>175 \div 32</math>の筆算をする。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体物を使い、商の見当を付けさせる。</li> <li>・ 言葉の式に基づいて式を導かせる。</li> <li>・ 商の見当を付けた後、10円玉のお金の模型を使って、計算の仕方を考えさせる。20円ずつ囲む活動を通して、<math>8 \div 2</math>で求められることに気付かせる。</li> <li>・ 10円玉の個数で考えると、<math>12 \div 2</math>で計算できることに気付かせる。</li> <li>【評】 模型を使って計算の仕方を考えることを通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ (除数) <math>\times</math> (商) + (余り) = (被除数) を使い、計算の確かめをさせる。</li> <li>・ 10円玉の個数で考えると、<math>8 \div 3</math>で計算できることに気付かせる。</li> <li>・ 10円玉の模型を使って、余りがどうなるかも考えさせる。余りが2と考える児童もいるので、10円玉を分ける操作を基に、余りは20(円)であることに気付かせる。</li> <li>・ 10円玉の個数で考えると、<math>17 \div 3</math>で計算できることに気付かせる。</li> <li>・ 10円玉の個数を基に、余りを考えさせる。</li> <li>・ (除数) <math>\times</math> (商) + (余り) = (被除数) や10円玉の模型などを利用して、余りの間違いに気付かせる。</li> <li>【評】 計算の間違いを説明する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・ 商の見当を付け、筆算の仕方を身に付けさせる。</li> <li>・ 96を90、32を30と見て、<math>90 \div 30</math>の計算から商の見当を付けさせる。</li> <li>・ (除数) <math>\times</math> (商) + (余り) = (被除数) で答えを確かめさせる。</li> <li>・ <math>90 \div 30 = 9 \div 3</math>なので、<math>9 \div 3</math>で商の見当を付けるとよいことに気付かせる。</li> <li>・ 「立てる」→「かける」→「ひく」の手順を声に出させながら、身に付けさせる。</li> <li>【評】 除法の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・ 被除数が3位数の場合も、商の見当を付けさせ、筆算をさせる。</li> <li>・ 1人分の枚数の見当を付けさせるとよい。</li> <li>・ 175を170、35を30とみて、<math>17 \div 3</math>で商の見当を付けるとよいことに気付かせる。商は1の位に立つことを確認する。</li> <li>・ 余りのある筆算を考えさせる。</li> <li>・ 商を立てる位置に注意させる。</li> <li>【評】 除法の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> </ul>

<p>5 見当を付けた商を修正する筆算の仕方を考える。[p. 111]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <math>252 \div 36</math> を計算する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★見当をつけた商をなおす筆算のしかたを考えよう。</li> <li>○ <math>252 \div 36</math> の筆算の仕方を再考する。</li> <li>○ <math>168 \div 28</math> の筆算の仕方を考える。</li> <li>○ <math>324 \div 36</math> の筆算の仕方を考える。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> </ul> <p>6 商が2桁になる除法の筆算の仕方を考える。[p. 112]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ <math>552 \div 24</math> を計算する。</li> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★商が2けたになるわり算の筆算のしかたを考えよう。</li> <li>○ <math>552 \div 24</math> の筆算の仕方を再考する。</li> <li>○ <math>730 \div 24</math> の筆算をする。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> </ul> <p>7 (4位数) <math>\div</math> (2, 3位数) の筆算の仕方について考える。[p. 113]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★大きな数のわり算の筆算をしよう。</li> <li>○ <math>9646 \div 26</math>, <math>1485 \div 26</math> の筆算の仕方を考える。</li> <li>○ <math>7536 \div 314</math> の計算の仕方を考える。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> </ul> <p>8 練習問題に取り組む。[p. 114]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「練習」に取り組む。</li> </ul> <p>9 除法に関して成り立つ性質について考え、それを活用して計算する。[p. 115]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★わり算の式がちがっても商が同じになるわけを考えよう</li> <li>○ <math>6 \div 2</math>, <math>60 \div 20</math>, <math>600 \div 200</math> を計算する。</li> <li>○ 商が同じになる理由を考える。</li> <li>○ <math>30 \div 10</math> の商も3になる理由を考える。</li> <li>○ 除法の性質をまとめる。</li> <li>○ 「練習問題」に取り組む。</li> </ul> <p>10 除法に関して成り立つ性質を利用して、計算を工夫する [p. 116]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★わり算のせいしつを使って、大きな数のわり算をしよう</li> <li>○ <math>6500 \div 250</math> の計算の仕方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮の商を修正し、真の商への修正の仕方を考えさせる。</li> <li>・見当を付けた商が8の場合、<math>36 \times 8 = 288</math> となり、252をこえてしまう点に気付かせる。</li> <li>・商を立て直して計算すればよいことに気付かせる。</li> <li>・見当を付けた商を2回以上の修正を行うことがある点に気付かせる。</li> <li>・除数36の10倍が360になり、被除数324をこえてしまうことに気付かせ、<math>32 \div 3</math> の商は10であるが、9を立てることを確認する。</li> <li>【評】見当を付けた商を修正する除法の筆算に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・商を立てる位置が、十の位になることを注意させる。</li> <li>・<math>55 \div 24</math> を <math>50 \div 20</math>, <math>5 \div 2</math> として、商の見当を付けさせる。</li> <li>・「立てる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の手順を繰り返して、筆算することを確認する。</li> <li>・10は24でわれないため、商の一の位は0をかくことを確認する。また、商の一の位に0をかき、余りになることも確認する。</li> <li>・計算に慣れるまで、「立てる」→「かける」→「ひく」→「おろす」と声に出させる。</li> <li>【評】除法の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・被除数や除数が大きくなっても、これまでと同じ計算の仕方では、計算できることに気付かせる。</li> <li>・被除数を上位から順に見て、商の立つ位を考えさせる。</li> <li>・除数が3位数になっても、2位数と同様に考えられることを確認する。</li> <li>・商の立つ位に注意して、筆算で計算させる。</li> <li>【評】練習問題に取り組む活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・つまづいている児童には、個別指導を十分に行い、原因を明確にさせる。</li> <li>【評】除法の筆算に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>・具体物を使い、除法に関して成り立つ性質をつかませる。</li> <li>・お金の模型を使い、商は全て3になることを確認する。</li> <li>・除数を10倍、100倍した場合、被除数を10倍100倍にすれば、商が同じになることに気付かせる。</li> <li>・除数を2倍、5倍にすると、被除数も2倍、5倍になっていることに気付かせる。</li> <li>・除数と被除数に、同じ数をかけても、同じ数でわっても、商は同じになることをまとめさせる。</li> <li>【評】除法に関して成り立つ性質を用いて計算する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>・除法に関して成り立つ性質を用いて、被除数と除数を簡単な数にして計算する方法を考えさせる。</li> <li>・除数、被除数ともに0の付く大きな数であることに気付かせる。</li> <li>・除法に関して成り立つ性質を使い、簡単な数にして計算する仕方を考えさせる。</li> <li>【評】除法に関して成り立つ性質を利用して計</li> </ul>
---	--

- 「練習問題」に取り組む。
- 11 単元を振り返り，確認問題に取り組む。[p. 117]
- 「たしかめよう」に取り組む。
- 
- 学習の振り返りを書く。

算する活動を通して，「思考・判断・表現」を評価する。

- ・個別指導を通して，単元の学習内容の定着を図る。
  - ・自己評価をし，不十分なところは教科書で振り返らせる。
- 【評】問題に取り組む活動を通して，「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・2桁でわるわり算の筆算について分かったことやできるようになったこと，もっとやってみようことなどを書かせる。

#### 【 備 考 】

除数が1位数の筆算や簡単なわり算の暗算については，「1桁でわるわり算の筆算」で学習している。本単元では，その発展として，除数が2位数の暗算や筆算を取り扱う。除数が2位数の筆算の仕方についても，「1桁でわるわり算の筆算」で扱った，「立てて，かけて，ひいて，おろす」という除法の筆算の手順を活用すればよいことに気付かせる。商が立つ位置を判断できれば，あとは同じ計算の繰り返しになるという筆算のよさも体得させることが大切である。しかし，2位数でわる場合，商の見当を付けたり，見当を付けた商の修正をしたりすることが必要になり，計算方法の理解と習熟が困難になる。この点にも十分に留意して指導したい。また，除法に関して成り立つ性質として，除数，被除数に同じ数をかけても，同じ数でわっても，商は変わらないことを知り，計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりするときに活用させることも重要である。